

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227  
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781  
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成18年11月(2006年) No.491

### 随想

## 映像発表会 雑感

会長 合原一夫

今年も映像発表会が各地で行われております。各クラブの一年間の総仕上げであり最大のイベントが発表会だと思います。それだけに、どんな作品を見せて頂くか楽しみに、できるだけ出掛けることにしております。わがOMCの場合を考え、まず会場確保から始ってプログラム編成までの一連の作業を取りしきる世話役さんたちのご苦労ぶりが目に浮かぶようです。

それにしてもどこも、手頃の大きさの良い会場を確保されているのには驚きです。200～300名ほどのほどよい大きさの会場で、階段状の見やすい会場が多いのです。この点、大阪では、こういう会場で安く利用できる会場が見当たらないのは如何にも残念です。OMCも以前は阿倍野市民学習センターでやっていましたが、天井が低く席も平ばで前席の人の頭が邪魔して見にくいということもあって、現在の大阪市立中央会館に移しましたが、ここも席は平ばで折りたたみ椅子です。しかし天井が高いので見にくいことはないということで定着しました。しかし、他の発表会を見て、やはり階段状の固定席がいいなあと思います。大阪アマチュア映像連盟や日本映像作家連盟の日本を縦断する映像発表会は、中央図書館との共催という形で利用させて頂いており、単独クラブでの利用はできません。

#### ■会場に案内係がほしい

少し遅れていくと会場に入ったとたん真暗で動きがとれません。目が慣れていないので足もとが暗くて見えないのです。こういう時、入口扉のところに懐中電灯を持った案内係が居て、空席まで案内すればせっかく来て頂いた方々に気持ちのよい印象を与えることでしょう。(以下次頁へ)

### 11月例会のお知らせ

11月例会は第4土曜日25日18時より大阪市立難波市民学習センターにて開催します。年度賞対象作品は今月までの例会作品の中から選考します。どうぞ作品をお持ちになってお集まり下さい。今月も楽しくやりましょう。

### ■司会時には観客席も半照明がほしい

受付でプログラムを渡されますが、作品紹介の司会の際、司会だけにスポットライトを当て、場内が真暗という場合、せっかく頂いたプログラムが見えません。司会の際はせめて半照明くらいの明るさにするのがよいと思いますが、どうも真暗の発表会が多いのは残念です。

### ■休憩時間が短すぎるのも困る

前半、後半の間に普通休憩時間をとりますが、前半の予定がオーバーしたのか、どうかすると5分とか短い休憩時間の発表会があります。トイレは満員で行列をなしているのと、とても5分では難しいのが現状です。進行表が作られてあれば、トイレ休憩はしっかり確保して、時間の調整は司会の時間で対応すべきなのです。

### ■4:3とワイドの映写

これからワイドやハイビジョンの作品が増えると思われませんが、まだ各地の発表会では4:3が主流です。吊下げ式スクリーンですとスクリーン幅一杯に4:3を上映し、ワイドでは上下を切った状態で上映されますと、せっかくのワイドが小さく見えます。発表会は最良の状態で見せたいもの。

映写の課題はまだ多いようです。

### 10月例会のレポート

行楽の秋、各種行事の秋たけなわの季節に加え、いつもの第4土曜より一週遅れの第5土曜の例会で、若干出席者が少ないのではないかと気になっていましたが、結局普段と変わらぬ26名の会員さんが集まりました。加えて井上さん、錦さんの2名の方が見学に来られ最後まで皆さんの作品をご覧になり来月からぜひ入会したいとの申し出がありました。暖かくお迎えしましょう。今月の司会は合原会長、書記安居氏、機材、増池、河合、江村の3氏、受付は宮崎、奥の両氏の担当で会を進行しました。

■出席者：有村、江村、岡本、奥、上総、関、紙本、河合、黒田、合原、進藤、玉井、秦、西村、華岡、藤原、前田、増池、松本、森、森口、森下、宮崎、安居、山本、吉岡の26氏に見学者2名の28氏。

### ■新入会員

・錦 務さん 〒546-0042 大阪市東住吉区西今川3-26-1 : Tel06-6702-1350

movn@movn.jp

http://mov-c.jp

・井上勝彦さん 〒658-0063 神戸市東灘区住吉山手8-7-406 : Tel 078-843-4549

inoue\_k@r7.dion.ne.jp

http://www.k2.dion.ne.jp/~inoue\_k

■上映作品(今月の講評は安居世話役です)

### 1. 落城物語三日月の影

紙本 勝さん

12分25秒

「山中鹿之助尼子家再興に生きる」という副題があり、16世紀出雲地方で起こった尼子と毛利の合戦の様子を現地にロケして詳しく語られました。昭和1桁世代にとって三日月に向かって「われに七難八苦を与えたまえ」と祈った山中鹿之助の逸話はなつかしく感じました。争いの経済的中心になった、かつての石見銀山にまでロケにいかれた紙本さんのファイトには脱帽です。一方、歴史を語るとき作者と見る人の関心の違いがいつも問題になります。どうまとめればよいか いつも悩むところです。歴史好きの人々の間ではいい作品と思うのですが…。

### 2. タイで楽しむ

有村 博さん

10分

「ビデオ仲間のお二人がこんなに沢山私を撮影してくれました」というスーパーが入っています。平成16年4月、ビデオ仲間の森田さん、堀さんと一緒にタイへいかれました。そのとき有村さん本人を撮影したビデオを中心にうまくまとめられています。自分がとった映像だけでは第三者的になり「タイで楽しむ」という主語があいまいになります。今回のまとめ方はその主語をはっきりさせた特異な作品でした。構成がうまくいったので主語である有村さんと一緒に第三者である私達もたのしめました。

### 3. 桂林紀行 悠久の風景

合原 一夫さん

9分36秒

水墨画で有名な桂林をたづねられた時の作品です。「悠久の風景」は何度見ても心が和みます。桂林からの漓江下りはビデオを撮るものにとっては最高のロケーションのようです。兩岸に現れる4万といわれるとがった山々、その間を悠々と流れる大河、船の甲板から三脚にすえたビデオカメラで心ゆくまでテープに記録したい、見ている筆者もそう思いました。一転雨の音、画面

は暗くなりますが、水墨画のオリジナルのような風景、船頭さんが一人ゆっくり櫂を漕ぎます。その船に4羽の鳥がじっと同乗しているカットは心に残りました。終点陽朔、1日に何百隻の観光船がつく都市ですが、一步裏町にはいると昔ながらの人と家並、観光客がこないところを合原さんは必ずお撮りになります。これによって「悠久の風景」が格調高い物に仕上がったように思いました。

#### 4. 花灯路散策 (ワイドカム)

秦 峰一さん 9分10秒

京都東山花灯路は3月中旬に点灯されます。北は青蓮院から南は清水寺まで散策路は4.6kmに広がるとか、この華やかな光景をじっくりと撮られました。やはりベテランだけあってどのカットも秀逸です。それをつないで構成された作品は見てみると筆者の記憶に残る産寧坂あたりを散策している気分になりました。京都の春先、ほんなりした情感は淡い光に浮かび上がり「これこそ京都」と感じました。ほろを被った人力車も風情があります。ラストはやはり皆の知っている八坂の塔と石たたみ、納得がいきました。

#### 5. もう一つの風の盆 (ワイド)

河合源七郎さん 13分49秒

この作品を作るためにどれだけ現地に足を運ばれたか、その執念の程がにじみ出ています。おはら風の盆は今までも多くの方がお撮りになった作品を見ましたが、まあそれなりという段階でした。しかしこの作品は観光客が去った深夜の地元の人たちの踊りに密着した「もう一つの風の盆」を追求した見ごたえのあるものです。わずかな光をうまく使って八尾かがみ町のつややかな踊りの情感をうまく表現されています。明け方まで町のあちこちで苦勞してカメラを回された様子を読み取れます。毎年行かれた努力の賜物です。行灯の光をどう有効に使うかカメラのデシベルをどの程度まであげるか、今回の成功は現場の経験が物を言ったと思います。タイトルの情感が伝わった秀作でした。

#### 6. 近江五箇荘 (ワイド)

増池 茂さん 7分

平成15年OMC撮影会が近江日野でした。その時も近江商人の町として地の祭を

撮った記憶があります。近江鉄道で八日市からもう少し行ったところが近江五箇荘、ここも近江商人発祥の地として町起こしイベントがあるのです。何でもありの時代行列、公募したという花婿花嫁を乗せた人力車、たのしい映像がつづきました。そして保存された昔の商人屋敷や観光客込みの町の風情など日野の撮影会に参加した人たちは、よりなつかしく見せていただいたことでしょう。

#### 7. ぶらり中山道「これより木曾路」(ワイド) 森口吉正さん 9分04秒

有名な中山道、馬籠から妻籠にいたる木曾路です。ロケされた映像をもとに心地よいナレーションが聞こえ、いつもながら安心して見せてもらいました。脚本がしっかりしています。藤村の小説「夜明け前」を縦軸にしながらのシナリオを作者は頭の中に描いて撮影されたのでしょうか。車と徒歩を上手に使ってのビデオ撮影、われわれにはチョットできない技です。名水ビデオから発展して木曾路ですか、森口さんの才能なら何に挑戦しても成功されるでしょう、今後の作品に期待しています。

#### 8. かば (ハイビジョン)

安居利次さん 6分

天王寺動物園に行ったとき かばの水槽に興味を持ちました。アクリルガラス越しに見たかばの生態がよく見える時と、にごって見えにくい時があるのです。HPで調べるといろいろ書いてありました。動物園側も工夫しているのです。ソレは糞を撒き散らし見せなくしようとするかば側との争いでもあったのです。そこをビデオ化してわかってもらえるかが焦点でした。まだまだ訂正の要ありです。反省しています。

#### 9. 宮入 (ハイビジョン)

奥 宏さん 7分42秒

大阪市営地下鉄の御堂筋線南の終点 ながらも 近くにある百舌鳥八幡宮。作者はお近くにお住まいになっているとはいえあの混雑の中、お一人で場所を変えながら撮られたファイトには感心させられます。布団太鼓の奉納は秋の満月の夜に行われる有名な行事だそうです。布団太鼓とはいえ3トンもあるそうです。ソレを54人で担ぐのですから担ぎ手一人の肩に50kgから60kgの加重がかかりその上足並みをそ

ろえるとなれば大変な体力が必要なようです。小学生が8人台座に乗り歌っている画面がありました。小子化で6年生だけではだめで地区によって4-5年生も混じっていると、反対に担ぎ手の人数は増やしているところもあるとか。こちらは体力のある若者が減っているからとか、作者のパワーにあやかっただけで布団太鼓の担ぎ手さんも頑張っただけではないかと思いました。

#### 10. 護摩供養 (ハイビジョン)

江村一郎さん 6分50秒

富田林の滝谷不動尊、ここでの護摩供養の様子を撮影されました。修験者同士の問答は構成上つかみとして成功しているように思います。このテンポがその後、江村流のアップアップのつながりを盛り上げて行きます。奉納された護摩木に火をつけ燃やして行くプロセスをお撮りになっているだけなのに見る人の興味をひきつけるのは江村さんの感性の魅力なのでしょう。ビデオ撮りの基本から離れたカットつながり、真似しようとしても出来ないところに江村流の本質があるように思いました。

#### 11. 早生桃の里 (ハイビジョン)

吉岡貞夫さん 8分58秒

吉岡さんのハイビジョン第1号作品、カメラは前からHC1をお持ちでしたから桃の里のテープは何本も撮りためて構想を暖められていたのでしょうか。ハイビジョン1号作品としてはすばらしいものに仕上がっていました。「都会の中に桃畑」映像を見て奇異に感じましたが本当はもともと桃の里があって徐々に住宅が桃畑に進出してきたのが現実と聞き、なるほどと納得しました。そういえばインタビューされている桃の里のオーナーも顔に老いが感じられました。跡継ぎが現れることを望みます。

#### 12. 薫風のころ (ハイビジョン)

前田茂夫さん 7分55秒

こいのぼりが泳いでいます、その向こうに餘部鉄橋、何回通われたことでしょうか、今年のOMCの撮影会は老朽化が進む鉄橋の最後の姿を撮る機会でした。鉄道ファンでもある前田さんはとりわけ愛着をもたれ秋から冬そしてこの薫風のころと夏までも通われ、鉄橋の四季をビデオに収められました。これらは前田さんの撮影・編集技術とあいまってHP上で幾多の人の目を楽し

ませ、大切な資料としてもいつまでも残ることでしょう。

#### 13. 雪の日も雨の日も (ハイビジョン)

進藤信男さん 13分50秒

すごい作品です。ビクターのビデオコンテストに応募されたら絶対入賞されること間違いのないと思います。時代の流れにあったテーマですし、なによりも作者が鳥に興味を持ち撮る技術をもっておられることが強みでした。人工飼育したコウノトリは人工物の上にしか巣をつくらない、なんてこれから解明していくべき大きな謎も映像として撮られています。「滅び行くものは、みなうつくしい、しかし滅びさせまいとすることはもっとうつくしい」ラストの言葉を作者は映像でうまく表現されたいました。拍手!

#### 14. 高原の小さい町 (ハイビジョン)

関剛さん 7分

カナダ、ケベック州ロレンジャ高原、その中部にあるモントランブランという小さい町にいかれました。HPでみたら10月は紅葉の季節らしくもみじ狩りをする人も多いとか、関さんのこの町のスケッチ拝見して本当にかわいいおもちやのような町の印象をうけました。今までの関さんのビデオと違い静かな落ち着いた描写に心温まるものを感じました。やはり関さんなにを描かれてもうまいですね。

#### 15. チベット (ワイド)

山本正夢さん 8分30秒

世界の秘境映像を毎回興味を持って見せてもらっていましたが、今回はチベットです。雄大な山々の風景、こまのような宗教用具を持ったチベットの男性、しかもモノトーン画像から徐々にカラーに変わります。太鼓をたたく男性、太鼓がフェードして高原で踊る女性、チョットいつもの山本さんの「つくり」とは違うなと思っていたら編集ソフトを変えられたようです。英語のソフトとか、フーンすごいなと感心しました。今回は場面転換に黒フェードが多かったようですが、山本さんのことですからすぐに使いこなされることと思います。これからはハイビジョンですばらしい秘境を願います。

以上で例会を終え、喫茶組と居酒屋組とに別れて散会しました。